

☆..きらっと☆図書館講座⑦with キャリア支援センター..☆
☆ 卒業生からのメッセージ 2017 ☆

2017年4月24日(月)12:20~12:50に開催しました。
今回お話しいただいたのは、2014年度地域こども学科卒業生、2015年度専攻科福祉専攻修了生の岩垣和也さんです。

現在、岩垣さんは「放課後等デイサービス・児童発達支援 なかまみらい」で児童指導員(保育士)として働いています。

- ①「どうして今の職場に就職しようと思ったか教えてください。いつ頃、就職は決まりましたか」
- ②「就職してから、もっと勉強しておけばよかった分野があれば教えてください」
- ③「学生時代にしている良かったと思うことは何ですか」
- ④「今の自分が学生時代の自分にアドバイスするとしたら、何と言いますか」
- ⑤「仕事をする上で大切にしていることは何ですか」などの質問に、

先輩は、

- ①「7月に現在就職している施設見学に行ってみて、子どもの発達支援に関わる施設の様子に魅力を感じ、8月に就職試験を受け、就職を決めました」
- ②「保育園、幼稚園、児童養護施設、高齢者施設等、様々な施設に実習に行きましたが、唯一実習に行っていなかったのが、障がい者施設でした。そのため、障がいの細かな分類や種類のことなど、もっと学んでおけば良かったと思いました」
- ③「学科を問わず、いろいろな人と関わったことです。また自分は、片道2時間30分かけて通学していましたが、学生時代は、大学祭等の大学行事に積極的に参加し、学生生活を楽しまました」
- ④「もっと計画的に目標を持って、将来を見据えて、勉強も遊びにも取り組むことをアドバイスしたいと思います」
- ⑤「利用者さんを尊重することです。対応や会話の言葉遣いが、失礼にならないよう気を付けています。実習の際にも、高齢者の方等、人生の先輩として失礼のないよう、尊重することを心がけました。あとは、“楽しむ”ことです。レクリエーションをする際も、自分が楽しまないと利用者さんには伝わりません」など答えていました。

その他、学生さんからの質問には、

- ⑥「現在就職されている施設の良いところ、良くないところを教えてください」
- ⑦「障がい者の方が間違っただけの行動をした際に、どのように注意したらよいのか、どのように関わったらよいのかの分かりませんでした。そんな時はどう対応したらよいですか」
- ⑧「利用者さんに関わることで、変化はすぐに見られますか」

これらの質問には、

⑥「自分の勤務している「放課後等児童サービス施設」の良いところは、集団プログラムと個別プログラムの両方があり、利用者さんのニーズに応じて様々なプログラムを提供できることです。良くない点は、男性職員が少ないことです」

⑦「その子の将来を見据えて、その子が大人になった際に困らないように、ダメなものはダメと教えるようにしています。利用者さんによっては、注意された嫌なことだけが記憶に残ってしまう場合もあるので、その方の特性に合わせて、直接的ではなく、遠回しに注意することなどを心がけています」

⑧「個々に個別計画を立て、プログラムを実施していますが、すぐに効果が見られるというものではありません。もっと長い目でその方のことをみる必要もありますし、保護者の求めているものも様々であり、家事をするための一時的な預かりを希望している方もいれば、その子が将来困らないよう、出来ることを一つでも増やしてほしいと希望される方もいます。その方のニーズに合わせて、支援しています。具体的には、集団での行動が苦手な子に対して、出来たことを沢山褒めることで自信をつけてもらい、一年かけて集団プログラムに参加できるようになった例もあります。プログラムに参加しない時期があれば、出来るようになっていたことが、後戻りしてしまう場合もあり、一進一退です。長い目で見守りながら支援することが必要です」など先輩は、真摯に答えていました。

今日の講座には、生活未来科生活福祉コースの学生を中心に約30名の参加がありました。



アンケートでは、

- ・ 働く中で、再度勉強しておきたいことが聞けて良かった。
- ・ すぐくためになりました。話が分かりやすかった。
- ・ 時間があっという間にすぎました。もっと聞きたかったです。
- ・ 利用者さんにとって良い支援を常に考え、仕事をされていることが伝わってきました。どうもありがとうございました。
- ・ お話して下さった方、質問の方共に真剣に考えて生きておられることが伺え、良い催しだったと思います。などの声がよせられました。

岩垣さん、忙しい中、本当にありがとうございました。

働き始めてからもさらに成長した姿を直に拝見できて、先生や私達職員もとても感動しました。

また、遊びに来てくださいね。

“きらっと☆図書館講座⑥ ☆・きらきら よい子の遊び講座 2017・☆

2017年7月19日(水)12:25～12:55 に開催しました。

今回のテーマは、“歌えば命の泉ワク^{×2}:まわってめぐる笑顔と感謝”

プログラム

海

琵琶湖周遊の歌

憧れのハワイ航路

いい湯だな

リンゴの唄

シリーズ 9 回目となる今回は、「歌えば命の泉ワク^{×2}:まわってめぐる笑顔と感謝」と題し、音楽ボランティアをライフワークとして活躍中である本学非常勤講師の和田宏一先生と作曲家・ピアニストの大藪真紀子先生が、レクリエーションの場において音楽をどう生かせば良いかについてご指導くださいました。前回の講座に引き続き、本学教授の安永龍子先生による「福祉施設などレクリエーションの場での音楽を使った体操」の実演や指導もありました。

毎年春に開催しているこの講座を、今回は初めて7月に行いました。

講座は、「海」の歌の紹介から始まりました。「松原遠く消ゆるところ」の歌詞で始まる「海」と「海は広いな 大きいな」の歌詞で始まる「海」の2種類の歌を紹介いただきました。

その後、滋賀県内でよく歌われている「琵琶湖周遊の歌」の紹介がありました。この歌は、旧制第三高校(現京都大学)水上部(現ボート部)で生まれ、できてから今年の6月28日で100年になり、最近マスコミにも取り上げられている歌です。

次に、先生方のボランティアの経験から、高齢者施設で好まれ、利用者の方が一緒に歌ってくださる歌として、童謡と歌謡曲があることを教えていただきました。「歌謡曲」の中でも、戦後復興期に歌われた昭和20年代の曲が特に人気があるとのことで、今回は、昭和23年に発売された「憧れのハワイ航路」をご紹介します。

図書館講座ということで、高齢者施設でのレクリエーションの場で参考になる雑誌や選曲に参考している本の紹介もありました。

「福祉施設などレクリエーションの場での音楽を使った体操」の例として、雑誌「レクリエ」で紹介されている「タオル体操」を「いい湯だな」の音楽に合わせて、会場の皆さんと一緒にしました。

最初に、安永先生から振り付けの実演がありました。

音楽に合わせて手拍子や、「いい湯だな」「ア ハハン」のリズムに合わせて体操をするうちに、会場の皆さんからは、自然と笑顔があふれました。

安永先生からは、体幹を意識しながらタオルを頭やひざなどに置いて楽しく体操をすること、利用者さんの体調をみてテンポを早くする、ゆっくりするなど、レクリエーションを行う対象者である利用者さんの体調や介護の状態に合わせたアレンジしたら良いことなどを教えていただきました。





最後に、高齢者施設で歌うと人気のある曲として、「リンゴの唄」を歌っていただきました。
生活未来科生活福祉コースの学生など約 20 名の参加がありました。

アンケートでは、

- ・施設での歌の役割は、大変有意義だと思った。
- ・目新しいレクを(施設の方は)望んでおられると思うので、また色々教えてください。
- ・琵琶湖周遊の歌、父がよく歌っていました。涙が出ました。などの声が寄せられました。



2017 大学祭 図書館イベントの報告

「えほんのひろば」「としょかん de カフェ」「としょかん de にゅうめん」

10月28日(土)12:00~16:00、図書館で卒業生による絵本の読み聞かせや、ぬり絵を楽しむ「えほんのひろば」を開催しました。また昨年度に引き続き、図書館でゆったりコーヒーを飲むことができる「としょかん de カフェ」も開催しました。今年度からは、パンの販売や12:00~13:30に「としょかん de にゅうめん」も同時開催しました。

29日(日)は台風のため延期となり、30日(月)10:00~16:00に28日と同様のイベントを開催しました。

2日間で約10組の家族連れや卒業生、一般の方など延べ約120名ほどの参加がありました。

天候の悪い中、ご来場いただいた皆さま、どうもありがとうございました。





“としょかん de カフェ:Xmasバージョン”

12月21日(木)、22日(金)、25日(月)9:00～16:30

昨年度に引き続き、大学祭で好評だった“としょかん de カフェ”をクリスマス時期にも開催しました。今年度はパンの販売もしました。試験やレポートの合間に、温かい飲み物を飲んで、ほっと一息。図書館でゆったりとした時を過ごす学生さんで賑わいました。約60名の利用がありました。

参加者からは、次のような声がよせられました。

- ゆっくりとくつろげました。
- ホットしました。
- クリスマス気分を味わえました
- またしてほしいです。

